# ききょうtimes

第16号
発行
吉沢学園
98-1562
平成4年3月24日

## 一年間の歩み

### 〈工芸班〉

工芸班は、今年度より、新しい作業班として、スタートをしました。作業内容は、年間を通じて、縄綯いを行い、わらをつぶす、綯うという作業を五名の園生で分担し、取り組んできました。

最初の頃は、園生はもちろん、指導員も縄綯いを経験するのは初めてのことで、年輩の指導員にきてアドバイスを受けながら、園生と一緒に学んできました。夏の暑い盛りには、窓を開けても一向に暑さは絶えず、その中でみんなは、よく頑張ったと感心しました。また、地域の農家の方より、わらを頂き、他の班にも[illegible]してもらい、わら運びを行いましたが、あの藁の大変さも忘れられません。

一年間をふり返ってみると、分担作業を行うことにより、自分の仕事に責任を持ち、それぞれが大事な仕事であることを理解してきたように思います。今後は、集中力、正確さを身につけると共に、自主性を養っていきたいと思っています。また、皆で協力し合い、励まし合いながら、頑張っていこうとも思っています。

### 〈園芸班〉

早いもので、私たち園芸班も一年間の作業を終えようとしています。四月の春の草花の種まきから始まり、花木、鉢植え、果樹〈キウイフルーツ〉・野菜の苗〈なす・ピーマン・ししとう・きゅうりなど〉・野草などというようにバラエティに富んだ組み合せで種類を拾い出し、一年を通していつでも何か花が咲いているように心がけています。

しかし、植物を栽培するにはかなりむずかしく思ったような草花には育ってくれません。毎朝の水やり、病害虫の駆除、肥料やり、除草作業、ポット植えなど、コツコツ作業をしているつもりですが、はかばかうまくいかず失敗の連続です。一年一年同じ失敗を繰り返さないように努力をしています。

そんな中で、毎日、明るく笑顔を見せてくれる園生には感謝しております。将来は、みんなの明るい笑顔のような草花を目標に、作業に取り組みたいと思います。

### 〈林産班〉

林産班では、椎茸栽培（ナメコ栽培）を行っています。主な作業は原木運びで、除草等です。原木運びはほとんどの園生が決められた場所まで落とさず運べるようになりました。暑い時、寒い時の原木運びでは、きついけれど原木から茸が出て、大きくなり収穫する時のみんなの顔に笑みが見られるようになってきました。今年度は、新しい榾場が出来ましたが、台風の為、一部壊れてしまい、残念でした。今度は台風でも壊れない榾場を作ろうとみんなで↘誓った日の事。更に雪が降り、雪の重みでシェードが切れないか心配し、シードに積った雪を落とすなど、自然の力を見せつけられた年でした。でもみんなの大切にしていた原木は、みんな自然の力にも負けず、たくましく芽を出してくれています。これもみんなが、原木に愛情をそそぎ大切にした結果ではないでしょうか。みんなも原木のように自然の力、いや辛さに負けず、大きく育っていこう。

### 〈家庭班〉

**家庭班は**四月より、新しい作業として空缶処理を始めました。散歩時には一人一人カゴを持ち、缶を拾い歩きました。また、園生を連れ、軽トラックで近くのお店や駅まで集まった空缶をもらいに行きました。こうして集めた缶は、一度水洗いをし、袋に詰め、機械でつぶし、最後にアルミとブリキに分け、それぞれ袋に詰める作業を行ってきました。最初の頃から見ると、常に声かけは必要ですが、皆分担された仕事をきちんと行えるようになってきました。また、カボチャやヘチマの栽培、雨天時には、カレンダー作りと色々な事をやってきました。

一年間をふり返ると、どの園生にも少しずつですが進歩が見られ、とてもうれしく思います。毎日のくり返し作業によって、身についてきた持続力を今後も伸ばしていきたいと思います。

### 〈農耕班〉

畑の手入れ、苗の植付け、収穫、雨天時には鍋しきと慌ただしく一年は過ぎようとしています。

除草では、作物を草と間違えて抜いてしまったり、踏んでしまったりと、アクシデントはありましたが、収穫時には皆が手伝い、その収穫を喜びました。収穫した作物は、数名の園生とスーパーに卸したり、牛久の朝市に行ったりしました。

秋から冬には、一班の畑の整地を行りました。雨、雪以外は、毎日寒い中園生全員がスコップやクワ、一輪車などを扱い、大量の土を移動しました。初めは、道具を使うのが危っかしく見ている方がハラハラしましたが、徐々に慣れ、それぞれ上手になり、驚いてります。きれいになった畑を見ると、皆の力ってすごいなとつくづく感心します。これからも、皆で力を合わせ楽しく作業を行いたいと思います。

---

：謝礼：
保護者からの空缶の拠出に感謝致します。

コクヨ コヒ-5D (64×44)

No.